（メッセ海外通信 2007年10→12月号掲載記事）

～オリンピックへ向けて～

下関市総合政策部国際課
（青島市派遣職員）
白野　哲

北京オリンピックの開幕まであと250日を切り、開幕に向けた準備が急速に進められています。オリンピック開催中は世界中から多くの観戦客が中国を訪れることが予想されるため、公共機関などのハード面の整備だけでなく、ルール意識やサービス精神、マナーの向上などソフト面での受け入れ準備も進められているところです。今大会は環境に配慮したオリンピックすなわちクリーンオリンピックの開催がテーマに掲げられ、北京を除く唯一の開催都市として、青島では様々な取組が行われています。その中でも特に力を入れているテーマの一つに、公共交通機関の充実が挙げられます。

しかし、元来中国ではルール意識やマナーなどに関する教育はほとんどされてきていないため、急激な経済の発展に追い付いていないのが現状です。そのため、1500億円もの国家予算を投じ、ルール意識やマナーの向上に関する国家プロジェクトが立ち上げられました。ここでそのプロジェクトのいくつかを紹介していこうと思います。

まず、国民の意識改革を行うため、主にテレビなどの電子媒体を利用して、ルール意識やマナーの向上に関する啓蒙活動が行われています。これらの啓蒙は「拍手しよう」編や「並ぼう」編、「笑顔で迎えよう」編などそれぞれテーマごとに製作され、テレビや駅、空港、バス、市内の電子掲示板などあらゆる場所で放送されています。飛行機の中でさえこの手の啓蒙CMは放送され、靴を脱いで他人に迷惑をかけない、化粧室に落書きをしたり壊したりしない、人の席に座らないなどマナーの向上を訴えています。

また、タクシー内には歯を磨こう、風呂に入ろう、異臭を漂わせない、車で寝泊まりしないなどと記載されたステッカーが貼られ、ドライバーへの意識改革が行われています。そのため、口からニンニクの臭いを漂わせたり、体臭のきつい運転手もすべて「車内の異臭」として取り締まりの対象となります。

これらの啓蒙活動を実践的に普及していくキャンペーンの一つに「並ぼうデー」があります。このキャンペーンは駅や商業施設、競技場、学校などで、人々が自主的に列に並ぶことを促進するもので、毎月１度行われています。マナーのいい人には景品も進呈されます。日本では当たり前のマナーだと思われる方も多いかもしれませんが、中国ではバスや列車への乗車時やチケットの窓口販売などで列に並ばない人が多いため、このようなキャンペーンが大々的に行われているのです。

　これらの啓蒙活動の成果か、バスでお年寄りや体の不自由な方へ席を譲る行為をよく目にするようになりました。少しずつでありますが、思いやりの心や譲り合いの精神が根付いてきているのではないでしょうか。オリンピック効果が経済のみならず、マナーの向上をもたらし、笑顔でオリンピックを迎えられることを祈るばかりです。